



第7号
H29.6.12.

私と佐渡

健康スポーツ学科 中島 郁子

小学生のとき。夕方。早めのご飯を終えて、だいぶ暗くなったころ、懐中電灯を握りしめて玄関を出る。茅葺屋根の器具庫までの10メートルは、子どもにとっては広大な宇宙。恐る恐る(ワクワクしながら)一巡りすると、あぶら蝉の幼虫が2~3匹は見つかる。星がきれいな真夏の佐渡の宇宙では必ず見つかった。自分で見つけた時の嬉しさったら、テストで満点をとったときの喜びなんか目じやない。まだ、(羽化の)場所の決まらない幼虫達を見つけては手のひらの上にそっとのせて、急いで家の中に戻り、リビングの長いカーテンに引っかける。しばらく上へ、上へ登っていく幼虫を眺めていると、手が届くギリギリになるので、また捕まえて、下の方に引っかける、幼虫はまた登る。これを繰り返していると、そのうち、ある場所で幼虫はじっと動かなくなる。背中に1本の筋が入り——ここまで2時間くらい、その割れ目から少し緑色を帯びた白色の蝉の背中が姿を現す——ここまで3時間くらい...。感動的な時間を味わうために、眠いのをひたすら我慢するのだ。

白く透き通った蝉のカラダが出てきて、縮んでいる羽がゆっくりと伸びるのを待つ。ひたすら待つ。途中、風呂やデザートやテレビドラマを気にしながらも、幼虫の命がけの「成人式」に、朝方までの6~7時間付きあうのである。これが私の小さい頃の原風景で、毎夏に家族と味わう「佐渡」体験なのであった。

父が両津の出身である。叔父、叔母夫婦や、親戚、従兄弟たちが、佐渡はもちろん新潟のあちらこちらに住んでいる。そうした縁の深いこの地に着任が決まった時、運命的なものを感じた。共働きで日頃なかなか両親と遊べなかつた私にとって、夏の佐渡は格別だった。もちろん、遊びだけでなく、食や命や自然のこと、人間関係...等々、人として成長していくための大切なことを本当にたくさん教わった。小さい頃は、佐渡の広大な宇宙が師匠だった。

そして今...大学では? いつまでたっても教っているより学んでいることのほうが多い。上司・同僚の先生方、職員の方、希望に燃えた学生たち、警備や清掃の方々——社会人として未熟な私にさまざまなことを教えてくれる、人生の先輩方に恵まれている実感がある。私の研究室はJ棟6階、北西側にある。空気が澄んでいると海の向こうに佐渡の山々がその美しい姿を見せる。こんなに恵まれた職場が他にあるのだろうか。新潟で迎える3回目の春が終わった。そろそろ今年の夏の準備を始めよう。あ、内緒で!

今回は、健康スポーツ学科の中島先生から玉稿をいただきました。中島先生は、お父様が両津のご出身とのことで、毎夏、必ず佐渡へ帰省し、佐渡の海で思い切り遊んだことがあります。これもまた不思議な縁で、佐渡と縁のある人に医療福祉大学で出会うことが出来ました。こんな出会いがあるところが、県人会・佐渡支部の良さだと思います。

県人会・佐渡 第1回全員集会 “ホッピ一息、佐渡の会”



今年度の新潟県人会・佐渡支部の第1回全員集会兼1年生歓迎会を5月19日（金）に行いました。今年度の佐渡支部の会員数は50名で、当日は13名の参加がありました。また山本学長先生、臨床技術学科の小澤口先生からもご参加いただきました。

同じ佐渡出身と言っても、学年が違ったり、出身校が違ったりすると、よく知らない人がいます。大学に入ると学科の仲間や部活、あるいはサークルの仲間、さらにはアルバイトの仲間などたくさんの出会いがあり仲間が増えます。是非仲間を増やしていってください。そして忘れてはならないのは、故郷の友達です。今回の集まりは大学での【点】としての出会いです。それが佐渡支部の活動を通して

【線】となり、そして佐渡の仲間としての【縊】となることを願っています。皆さんの積極的な参加を期待しています。

新幹事長 あいさつ

こんにちは。健康スポーツ学科3年の川邊陽平です。両津出身で佐渡高校卒です。

皆さんは高校時代、佐渡は何もなく都会に憧れを抱いていた時期が少なからずあったと思います。佐渡を離れた今はどうでしょうか。佐渡を離れ、故郷佐渡への思いが募ってきているのではないでしょうか。私は今、佐渡に近いこの新潟で過ごせることに感謝しています。

今年の県人会佐渡支部の会員数は50名です。この会は、佐渡についてみんなで語り合い、お互いの繋がりを深めるよい会になると信じています。気軽に楽しめる会を企画していきますので、皆さん是非参加してください。

県人会佐渡支部 幹事長
健康スポーツ学科 3年 川邊 陽平

